

平成 30 年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	中央市立田富中学校	1～2
2	韮崎市立韮崎小学校	3～4
3	北杜市立泉中学校	5～6
4	笛吹市立石和北小学校	7～9
5	笛吹市立春日居中学校	10～11
6	山梨市立日下部小学校	12～13
7	南部町立南部中学校	14～15
8	身延町立身延清稜小学校	16～19
9	甲府市立大國小学校	20～21

(様式1 計画書)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	中央市立田富中学校	校 長 名	清水千春
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

- 周囲には大型ショッピングセンターやコンビニなどが身近にあり、家に帰らなくても食事を済ませることができる環境である。
- 保護者の仕事の関係、塾や習い事などから、家族と一緒に食事をする機会が少ない生徒がいる。
- 朝起きて、家族と朝食を食べるなどの基本的な生活習慣から著しく外れている生徒が、他の地域より比較的に多い。

実 践 名	こだわり弁当を作ろう
目 標	○望ましい栄養や食事のとり方を理解し、栄養のバランスのとれた弁当づくりに取り組むことにより、自ら管理していく能力を身につける。 ○食事を大事にし、食に関する人々へ感謝する心を育てる。
目標指標と数値	①こだわり弁当づくりについての全校集会の実施。0回→1回 ②弁当づくりに取り組む生徒の増加 一人で作る・・・30%以上、家族と一緒に作る・・・60%以上 合計90%以上の生徒が弁当づくりをする。
実施予定日 ・実施予定期間	弁当の日 11月5日(月) 実施 指導期間2学期
対 象	全学年
指導場面	全校集会、家庭科、給食の時間、学級活動の時間
指 導 者	給食担当教諭、家庭科担当教諭、担任教諭、学年担当教諭、
具 体 的 な 内 容	
①「子どもが作る田富中・弁当の日」の保護者向け依頼文書配布する。 ②こだわり弁当づくりについての全校集会を実施する。 ③栄養教諭から食育だよりを発行する。それをもとに各学級で弁当づくりについて学習する。 ④図書室より、弁当づくりのレシピ本について紹介する。 ⑤「こだわり弁当をつくらう」のワークシートを使って、弁当のメニューについて考える。(学活) ⑥実施の様子や事後アンケート結果、優れた弁当などを全校に紹介し、今後の意欲関心につなげる。	
評価方法	事後アンケートから、生徒の変容をとらえ評価する。

(作成者名 芦澤 佳美 校務分掌等 給食主任)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	中央市立田富中学校	校 長 名	清水千春
-------	-----------	-------	------

実 践 名	こだわり弁当を作ろう
目 標	○望ましい栄養や食事のとり方を理解し、栄養のバランスのとれた弁当づくりに取り組むことにより、自ら管理していく能力を身につける。 ○食事を大事にし、食に関する人々へ感謝する心を育てる。
目標指標・数値	①こだわり弁当づくりについての全校集会の実施。0回→1回 ②弁当づくりに取り組む生徒の増加 一人で作る・・・30%以上、家族と一緒に作る・・・60%以上 合計90%以上の生徒が弁当づくりをする。
実践後の数値 (評価方法)	自分一人で弁当を作る・・・23% 家族と一緒に作る・・・48% 合計71% (事後アンケートより)
実施日 ・実施期間	弁当の日 11月5日(月) 実施 指導期間2学期
対 象	全学年
指導場面	全校集会、家庭科、給食の時間、学級活動の時間
指 導 者	給食担当教諭、家庭科担当教諭、担任教諭、学年担当教諭、

具 体 的 な 内 容

- ①「子どもが作る田富中・弁当の日」の保護者向け依頼文書配布する。
- ②こだわり弁当づくりについての全校集会を実施する。
- ③栄養教諭から食育だよりを発行する。それをもとに各学級で弁当づくりについて学習する。
- ④図書室より、弁当づくりのレシピ本について紹介する。
- ⑤「こだわり弁当をつくろう」のワークシートを使って、弁当のメニューについて考える。(学活)
- ⑥実施の様子や事後アンケート結果、優れた弁当などを全校に紹介し、今後の意欲関心につなげる。

成 果	昨年の反省から、今年度は11月の初旬に実施した。また、給食集会を10月下旬に実施し、給食の現状(残菜など)や食事の大切さを伝えるとともに、なぜお弁当の日を実施しているのか、その趣旨を改めて伝えた。さらに給食を作っている隣接する小学校の栄養教諭から全校生徒に向けて話をいただいた。当日の弁当作りについては、「自分で作った」または「家族と一緒に作った」の割合が昨年度よりも増えた。また弁当の日の要望についても、昨年度は否定的な意見があったが、実施日を増やしてほしい等、肯定的な意見が多くなった。集会で給食の残菜について取り上げたことにより、以前よりも残菜の量が減るようになった。
-----	---

今後の課題	自分ひとりで作っている生徒の割合は、全校で23%であるが、この取り組みがあっても親任せの生徒が27%もいる。生徒の生きる力を育てるためにも、食の自立は大切である。目標到達にはまだ道半ばであるが、これからも原点に忘れずに「自分で作るお弁当の日」に取り組んでいきたいと考える。
-------	--

(作成者名 芦澤 佳美 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	葦崎市立葦崎小学校	校 長 名	阿部 洋文
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

学級全体の給食の残食はほとんどないが、個々でみると偏食、少食の児童がいる。特に野菜が苦手な児童が多く、食べる前に基準量の半分以上に減らす児童もいる。学校給食を通して、いろいろな野菜の入った料理を食べているが、料理によっては残食があり、栄養バランスのとれた食生活を送っているとは言い難い。

実 践 名	「野菜を育てて、食べよう」
目 標	野菜の栽培・収穫体験を通して、旬の食べものに対する興味・関心を高める。野菜を食べると、体にどんな良いことがあるか理解し、少しずつでも食べようという意欲をもつことができる。
目標指標と数値	給食ではじめに盛り付けられた野菜を残さず食べることができる児童を増やす(85%以上を目指す)。
実施予定日 ・実施予定期間	平成30年5月から2月までの間
対 象	第2学年
指導場面	生活科 給食の時間
指 導 者	学級担任 管理栄養士
具 体 的 な 内 容	
【生活科 (めがせ野菜名人)】 ・野菜を育て、収穫する。(ミニトマト、サツマイモ、キュウリ、ナス、オクラ、ピーマン、トウモロコシ) ・野菜と果物クイズを通して、旬について考える。	
【食育体験 (トウモロコシの皮むき)】 ・トウモロコシについて、知る (トウモロコシ畑や生産者について知る)。 ・高根町産の朝採りのトウモロコシの皮むきを全校分行い、当日の給食で味わう。	
【給食の時間】 ・毎日の給食には、旬の野菜やいろいろな種類の食材が使われていることを知る。 ・給食で使用している地域の野菜を知る。 ・野菜の働きについて知る。 ・苦手な野菜を食べる方法を考える。	
評価方法	3学期、野菜を特に多く使った日の給食の残食量や喫食状況を調べる。

(作成者名 藤原理恵・中村ゆかり

校務分掌等 給食主任・管理栄養士)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	蕪崎市立蕪崎小学校	校 長 名	阿部 洋文
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	「野菜を育てて、食べよう」
目 標	野菜の栽培、収穫体験を通して、旬の食べものに対する興味、関心を高める。野菜を食べると、体にどんな良いことがあるか理解し、少しずつでも食べようという意欲をもつことができる。
目標指標・数値	配膳時に盛り付けられた野菜を残さず食べることができる児童の割合を増やす(85%以上を目指す)。
実践後の数値 (評価方法)	配膳時に盛り付けられた野菜を残さず食べた児童の割合 2月 平均値 87.3% クラスの残食量は、ほとんどなかった。
実施日 ・実施期間	平成30年5月から平成31年2月までの間
対 象	第2学年
指導場面	生活科 給食の時間
指 導 者	学級担任 管理栄養士
具 体 的 な 内 容	
<p>【生活科(めざせ野菜名人)】 5月～10月 野菜を育て、収穫する。(ミニトマト、サツマイモ、キュウリ、ナス、オクラ、ピーマン、トウモロコシ)。収穫した野菜は、給食で使用、家庭に持ち帰って食べる。</p> <p>【食育体験(トウモロコシの皮むき)】 ・8月22日 トウモロコシについて学習し、高根町産の朝採りのトウモロコシの皮むきを全児童分行い、当日の給食で味わう。</p> <p>【給食の時間における給食指導(学級担任と管理栄養士による指導)】 ・給食を生きた教材として活用し、指導した。 旬の野菜やいろいろな種類の食材が使われていることについて、野菜の働きについて、給食で使用している地域の野菜について、苦手な野菜を食べる方法について</p>	
成 果	1年間の学習を通して、野菜を身近なものとして感じ、意欲的に食べる姿がみられた。野菜を減らす児童も、4月より減らす量が少なくなっているため、食べる量は増えていることが成果であった。
今後の課題	個人差が大きいため、今後も計画的に指導を続けていきたい。また、正しい食べ方(姿勢やよくかんで食べること)も指導をしていきたい。

(作成者名 藤原理恵・中村ゆかり 校務分掌等 給食主任・管理栄養士)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	北杜市立泉中学校	校 長 名	浅川 栄司
-------	----------	-------	-------

児童生徒の課題

近年、「核家族世帯」が増加しており、孤食や個食、偏食等、「食」に関する問題が非常に多くなってきている。本校も核家族が多く、食に関する問題は少なくない。泉中学校では、そのような問題解決も踏まえ、全校生徒が自分でお弁当作りにチャレンジする「お弁当の日」を実施している。この取り組みを通して、生徒が食への関心を高め、「自分で食べるものは自分で準備する」といった食生活の自立を目指していきたいと考えている。しかし、前年度までの全校生徒対象の事後アンケートの結果から、自分一人でお弁当を作ったという生徒の割合が低く、家族が作ったという生徒も少なくないため、家庭でもお弁当の日に対する意識の低さが考えられる。

実 践 名	自分で作る「お弁当の日」の意識を高める
目 標	家族が作った生徒の割合を前年度より減らす
目標指標と数値	H29年度の取り組みで“家族が作った”生徒の割合が全校で13% →H30年度は半分に減らす
実施予定日 ・実施予定期間	平成30年6月26日
対 象	全校生徒
指導場面	家庭科 お便り 給食の時間
指 導 者	給食主任 学級担任 栄養士 非常勤講師
具 体 的 な 内 容	
<p>生徒及び保護者へのお弁当の日に対する意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けにお弁当の日実施に対するお知らせの文書を配布。 ・全校生徒に向けてお弁当作りのおたよりを配布。 ・図書館と連携し、お弁当の日に関する本を展示してもらう。 ・家庭科の授業を通して全学年にお弁当の日の話に触れてもらい意識を高める。 ・1年生は初めての取り組みとなるため、事前指導を行う。→前年度は道德の授業を使って、栄養士一人で指導を行ったが、今年度は、家庭科の先生に協力をお願いし、TTでの授業を行う。家庭科の授業における学習内容と、生きた教材である給食を関連させて指導を行うことで、望ましい食事の内容がより具体的にイメージができることと考えている。 ・学校全体で同じ気持ちで取り組みを進めたく、職員もお弁当の日は自分で作ったものを持参する。 ・前年度まで教室でクラス毎に食べていたが、今年度はランチルームを活用し、職員を含め、全校一緒に給食を食べることで、意識を高める。 ・生徒、職員のお弁当の写真を個別に撮り、学園祭で展示する。 	
評価方法	・事後アンケートを行い、前年度との比較と、来年度に向けての参考資料とする。

(作成者名 清水 竜司 校務分掌等 給食主任)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	北杜市立泉中学校	校 長 名	浅川 栄司
-------	----------	-------	-------

実 践 名	自分で作る「お弁当の日」の意識を高める
目 標	家族が作った生徒の割合を前年度より減らす
目標指標・数値	H29年度の取り組みで“家族が作った”生徒の割合が全校で13% →H30年度は半分に減らす
実践後の数値 (評価方法)	「お弁当の日」実施後のアンケートを行った。昨年度は“家族が作った”生徒の割合が全校で13%だったところ、今年度は6%となり、目標を達成することができた。
実施日 ・実施期間	平成30年6月26日
対 象	全校生徒
指導場面	家庭科 お便り 給食の時間
指 導 者	給食主任 学級担任 栄養士 非常勤講師
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けにお弁当の日実施に対するお知らせの文書を配布。 ・全校生徒に向けてお弁当作りのおたよりを配布。 ・図書館と連携し、お弁当の日に関する本を展示してもらう。 ・家庭科の授業を通して全学年にお弁当の日の話に触れてもらい意識を高める。 ・1年生は初めての取り組みとなるため、事前指導を行う。→前年度は道徳の授業を使って、栄養士一人で指導を行ったが、今年度は、家庭科の先生に協力をお願いし、TTでの授業を行う。家庭科の授業における学習内容と、生きた教材である給食を関連させて指導を行うことで、望ましい食事の内容がより具体的にイメージができることと考えている。 ・学校全体で同じ気持ちで取り組みを進めたく、職員もお弁当の日は自分で作ったものを持参する。 ・前年度まで教室でクラス毎に食べていたが、今年度はランチルームを活用し、職員を含め、全校一緒に給食を食べることで、意識を高める。 	
成 果	担任、図書館、家庭科の授業等との効果的な連携により、全校生徒に「お弁当の日」の意義を的確に伝えることができたことが、今回の結果に繋がったと感じるので、継続して行いたい。
今後の課題	全体的には改善することができたが、学年によって“家族が作った”生徒の割合に差が生じているので、来年度は各学年の実態に沿った取り組みを考える必要がある。

(作成者名 清水竜司 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立石和北小学校	校 長 名	武川 重信
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

○平成30年度新体力テストでの朝食の摂取状況調査結果 「毎日食べる児童」90.7% (1年生91.7%、2年生93.5%、3年生88.0%、4年生92.0%、5年生87.5%、6年生90.5%) 「ときどき食べない」9.3% (1年生8.3%、2年生6.5%、3年生12%、4年生8.0%、5年生12.5%、6年生9.5%) ○児童との会話の中で、朝食は食べてはいても、食事の内容に課題のある児童が見受けられる。

実 践 名	一日の活動源、朝ごはんをしっかりと食べよう。
目 標	・朝食を毎日食べる児童を増やす。 ・望ましい食事内容の朝食を食べている児童を増やす。(5、6年生)
目標指標と数値	・朝食を毎日食べる児童を95%にする。 ・主食+おかずという内容の朝食を食べる児童の割合を増やす。
実施予定期間	平成30年度2学期
対 象	全校児童
指導場面	朝の活動、学級活動(給食)(保健)、給食時間
指 導 者	学級担任 養護教諭 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
【食に関する指導年間計画に基づいた指導】 ○8・9月「規則正しい食生活」 ・1～4年 運動会の取組期間前、朝の活動で朝食の大切さを学習 ・5年生 運動会の取組期間前、学級活動(1単位)で朝食の大切さと望ましい食事内容について学習 ・6年生 給食時、朝食の大切さと望ましい食事内容について学習 ○10月「バランスのよい食事」 ・6年生 学級活動(1単位)でバランスのよい朝食メニューを考え、家で調理。5年生を対象にその取組を発表。 【他教科等の関連】 ○家庭科…6年生「くふうしよう朝の生活」(学習済み) 5年生「元気な毎日と食べ物」 ○学級活動(保健)…1、2年生「早寝・早起きをしよう」 ○体育…3年生「毎日の生活と健康」 【家庭との連携】 ○授業参観での食育授業…10月 6年生学級活動 ○給食便りを通して、朝食の大切さと望ましい内容について周知するとともに「我が家の朝食大作戦」(家庭生活での工夫やおすすめのメニュー)の募集と紹介する。	
評価方法	○2学期末朝食の摂取状況の調査 ○学級活動 事前事後のアンケート比較、ワークシートからの読み取り

(作成者名 高尾 順子 校務分掌等 栄養教諭)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立石和北小学校	校 長 名	武川 重信
-------	------------	-------	-------

実 践 名	一日の活動源、朝ごはんをしっかりと食べよう。
目 標	・朝食を毎日食べる児童を95%にする。 ・望ましい食事内容の朝食を食べている児童を増やす。(5、6年生)
目標指標・数値	① 朝食を毎日食べる児童を95%にする。 ② 主食+おかずという内容の朝食を食べる児童の割合を増やす。
実践後の数値 (評価方法)	①について ・8～10月の学級活動や朝の活動での指導実践直後…95.0% ・2学期末の調査…90.0% ②について ・指導実践前 86.7%⇒2学期末 88.9% 評価方法…朝食摂取状況の調査、ワークシートからの読み取り
実施日・実施期間	平成30年度2学期
対 象	全校児童、保護者
指導場面	朝の活動、学級活動、給食時間
指 導 者	学級担任 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>【食に関する指導年間計画に基づいた指導】</p> <p>○8・9月「規則正しい食生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4年 運動会の取組期間前、朝の活動で朝食の大切さを学習した。 1、2年生は、ジュースチャームを取り入れて朝食の働きを学習。3、4年生は、朝食の働きとバランスよく食べることの大切さについても学習。 ・5年生 運動会の取組期間前、学級活動(1単位)で朝食の大切さと望ましい食事内容について学習。望ましくない内容の朝食を例にして、よりよいものにするにはどうすればよいか、班で話し合いをしながら考えた。 ・6年生 給食時、朝食の大切さと望ましい食事内容について学習した。 <p>○10月「バランスのよい食事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生 学級活動(1単位)の学習でバランスのよい朝食メニューを考え、家で自分で調理する取組を行った。学級活動は授業参観で行い、朝食メニューを考える際には、保護者からアドバイスをいただきながら班で献立を立てた。 21人中20人の児童が休日にその朝食メニューを調理し、家族で食べた。児童や保護者からまたこのような機会を作りたいという感想が多くあった。 <p>【家庭との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業参観での食育授業…10月 6年生学級活動 ○給食便りを通して、朝食の大切さと望ましい内容について啓発した。 <p>【掲示資料による指導】</p> <p>気温が下がると早起きできなくなる児童が増えることが考えられたため、学習内容を思い出したり、個別懇談に来校した保護者の目にもふれたりするよう、2学期末に掲示資料を作成した。</p>	

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの課題に対し、発達段階にそって、全校で食育を実践できた。この機会を通して、教職員の食育推進に対する意識を高めることができた。 ・授業参観で学級活動の授業を行った。保護者の関心も高まった様子が、参観しての感想から感じられた。 ・「毎日朝食を食べる児童の割合」が指導実践後は目標の 95%とすることができた。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導実践直後は朝食の摂取率を目標値まで上げることができたが、2 学期末には低下してしまった。継続的な指導と家庭への啓発をさらに工夫していく必要がある。 ・来年度からの教育課程の中でどのように時間を確保し、食育を推進していくか、しっかり計画を立てておくことが必要である。

(作成者名 高尾 順子 校務分掌等 栄養教諭)

(様式1 計画書)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立春日居中学校	校 長 名	古屋 修二
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

昨年度調査をしたところ、朝食を毎日食べている生徒は、中1 95% 中2 77% 中3 86%という結果が出た。県スポーツ推進プログラムの目標値に達しておらず、朝食をしっかり、とることで体力増進、健康維持につながってくると考えている。また、引き続き栄養素についての学習も給食時の放送や授業で発信していきたい。

実 践 名	朝食を毎日食べる生徒を増やす。 栄養素について学ぶ。
目 標	① 朝食を毎日食べる割合を目標値に達成するようにする。 ② 自己の健康につながる食事について考え、当日の給食で摂取される栄養について学ぶ。
目標指標と数値	朝食を食べる生徒の割合を90%以上にする。
実施予定日 ・実施予定期間	平成30年6月～翌年2月
対 象	全学年
指導場面	・体育の授業・保健便り等で、各担任が指導 ・栄養素についての学習
指 導 者	・体育科教師・家庭科教師・学級担任・養護教諭・保健食育委員会担当顧問
具 体 的 な 内 容	
・生徒委員会による「保健新聞」「保健便り」等で、朝食摂取の必要性を発信し、生徒、各家庭への啓発を行う。 ・保健指導、食育の充実を図る。 ・栄養素についての学習を行う。→アンケートとる。 ・保健体育の授業での指導（体力づくりと朝食の関連性について） ・学校栄養職員との連携を図る。	
評価方法	・委員会でアンケートをとる。 ・授業後アンケートをとる。

(作成者名 渡辺 美季 校務分掌等 給食主任)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立春日居中学校	校 長 名	古屋 修二
-------	------------	-------	-------

実 践 名	朝食を毎日食べる生徒を増やす。 栄養素について学ぶ。
目 標	① 朝食を毎日食べる割合を目標値に達成するようにする。 ② 自己の健康につながる食事を考え、当日の給食で摂取される栄養について学ぶ。
目標指標・数値	朝食を食べる生徒の割合を90%にする。
実践後の数値 (評価方法)	朝食の数値 1年89% 2年87% 3年87%
実施日 ・実施期間	平成30年6月～翌年2月
対 象	全学年
指導場面	・体育の授業・委員会便りで各担任が指導 ・栄養素についての学習(家庭科)
指 導 者	・体育教師 ・家庭科教師 ・学級担任 ・養護教諭 ・保健食育委員会担当顧問
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒委員会による「保健新聞」「保健便り」等で、朝食摂取の必要性を発信し、生徒、各家庭への啓発を行う。 ・保健指導。食育の充実を図る。 ・栄養素についての学習→学級活動の中で、学校栄養職員での授業(2学年で実施) コンビニエンスストアで昼食を購入する際、中学生に必要な栄養素や量のバランスを考えた商品を選ぶことができるようにする。 給食を例にバランスのよい食事の摂り方を知る。・保健体育の授業での指導。・学校栄養職員との連携を図る。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業で栄養素について学習をしていることを基に、給食や自分で選ぶ日常の昼食について考え、選んで購入することの重要性について理解することができた。栄養士の先生からの説明で、いつも食べている昼食は、中学生のために考えていることがよくわかった。給食の献立の重要性が理解できた。朝食摂取率を高める取組については、生徒委員会、養護教諭、体育科で連携を図り、新聞を作成したことで朝食の大切さを伝えることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の先生方にも協力してもらい、日常の食生活を振り返る授業ができると、さらに生徒が家庭で役立津古とができる学習に発展できる。 ・気軽に TT や栄養士の先生の話が、授業に組み込むことができるよう、時間の調整が必要。朝食摂取も含め生活習慣については、摂取しない生徒が固定化されている現状がある。家庭との連携が不可欠である。

(作成者名 渡辺 美季

校務分掌等 給食主任)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	山梨市立日下部小学校	校 長 名	古屋 宗久
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月実施のアンケートにおいて、①朝食を必ず摂る児童95%、②好き嫌いが無い児童34% ③給食を残さず食べる児童53%であった。 ・ 7月の14日間の残食量は、1日平均主食51人分、主菜32人分、副菜42人分、汁物42人分、牛乳36人分であった。 ・ 食に関する正しい知識が十分でなく、給食においても野菜の残食が多いことから栄養摂取に偏りがあるなど望ましい食習慣の定着に課題があると考えられる。 ・ 好き嫌いがある、嫌いなものは残すという実態から、食物の生産に関わる人々への感謝の気持ちも育てたい。

実 践 名	好き嫌いなく何でも食べよう
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。 ・ 食物を大事にし、食物の生産等に関わる人々へ感謝する気持ちを持つ。
目標指標と数値	朝食を毎日食べる子どもの割合（100%に近づける） 給食での野菜料理（副菜、汁物など）の残食量（全校で30人分以下） 好き嫌いをしないで食べる子どもの割合（6割以上）
実施予定日 ・実施予定期間	2学期
対 象	全校
指導場面	教科（国語、生活科、保健、家庭科など）、学級活動、発育測定の前、給食の時間
指 導 者	学級担任、養護教諭、栄養士
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 早起き・早寝・朝ごはんなど正しい生活習慣に関わる保健指導と「はやおきはやねチャレンジカード」の実施 ・ 給食の時間に、旬の野菜、バランスのよい食事など指導を行う。また、学校給食の野菜の残食量を調べ、児童に還流し、課題を意識させる。 ・ 教科、学級活動のなかで、栄養や食事の取り方に関わる内容を中心に、食に関する指導を行う。 ・ 食習慣の状況に関するアンケートを行い、指導に生かす。 	
評価方法	アンケート結果 授業のワークシートからの見取り 給食野菜の残食量

（作成者名 清水 利子 校務分掌等 給食主任 ）

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	山梨市立日下部小学校	校 長 名	古屋 宗久
実 践 名	好き嫌いなく何でも食べよう		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。 ・食物を大事にし、食物の生産等に関わる人々へ感謝する気持ちを持つ。 		
目標指標・数値	朝食を毎日食べる子どもの割合（100%に近づける） 給食での野菜料理（副菜、汁物など）の残食量（全校で30人分以下） 好き嫌いをしないで食べる子どもの割合（6割以上）		
実践後の数値 (評価方法)	アンケート結果 ①朝食を必ず摂る児童 95%（6月）→97%（2月） ②好き嫌いが無い児童 34%（6月）→32%（2月） ③給食を残さず食べる児童 53%（6月）→75%（2月）		
実施日・実施期間	2, 3学期		
対 象	全校		
指導場面	教科（国語、生活科、保健、家庭科、道徳など）、学級活動、給食の時間		
指 導 者	学級担任、養護教諭、栄養士		
具 体 的 な 内 容			
<ul style="list-style-type: none"> ・早起き・早寝・朝ごはんなど正しい生活習慣、とくに朝食の大切さに関わる保健指導と「はやおきはやねチャレンジカード」の実施。生活チェックカードの月3回の実施。 ・給食の時間の指導 バランスのよい食事、「いただきます」と「ごちそうさま」、好き嫌いをなくすことを中心にした指導。 ・給食委員会による読み聞かせ、手作り紙芝居（給食を残さず食べよう）。 ・栄養や食事の取り方や食に関わるもの・人に対する感謝に関わる内容を中心に、食に関する指導。（5, 6年家庭科, 3年国語科, 2年道徳, 学級指導など） 			
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も残食を減らす取り組みとして、バランスの良い食事が成長や健康にとって大切であること（保健指導や教科・学級指導）と動植物の命や食に関わる人々への感謝の心を育てることの両面からせまった。好き嫌いのない児童の割合は変わらないが、残さず食べている児童の割合が20%以上増えたというアンケート結果や残食の状況から見て、指導の成果が現れていることがわかる。 ・生活習慣改善に向けたチェックカードや朝ごはんの重要性を発信してきたことにより家庭への啓発もでき、朝ごはんはほとんどの児童が摂っている。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を摂らない児童が0ではない実態から、この取り組みを継続したい。 ・2学期より給食がセンター化されたことから、残食の状況は正しく把握できなくなった。残さず食べている児童が7割以上という改善が見られたもの、7割弱の児童に好き嫌いがあるという実態は変わらないので、家庭と連携して、改善に向けた取り組みを継続したい。 		

(作成者名 清水 利子

校務分掌等 給食主任)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	南部町立南部中学校	校 長 名	石川 君男
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

- ・好き嫌いがある。(肉類やジャンクフード、デザートは好むが、野菜、魚を嫌う傾向にある。)
- ・家庭学習の習慣が身につけていない。(学習時間が少ない。睡眠時間が少ない。ゲームやスマホに費やす時間が長い。)
- ・バランスを考えた朝食をとっていない生徒が多い。
- ・「食」についての知識が少ない。
- ・学んだ知識を自ら、生活で実践しようとする力が弱い。

実 践 名	受験期の食事について ～望ましい食習慣をつくり賢くなるう～
目 標	部活動を引退し、受験勉強に専念する3年生にとって、運動量も減り、生活リズムも変化する時期である。その時期に、食習慣も含めた、望ましい生活習慣を各自が身につけることができる。さらに、「脳と食事」の関係について知識を深め、得た知識を、授業だけでなくよりよい家庭学習習慣を身につけることにつなげる。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べる生徒の割合 8割以上 ・栄養教諭の指導実践回数 8～10回(9月～3月)
実施予定日 ・実施予定期間	9月下旬～10月上旬
対 象	第3学年
指導場面	学級活動
指 導 者	学級担任・学年部職員・栄養教諭・食教育担当
具 体 的 な 内 容	
<p>◇事前アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食の様子 ・間食の内容 ・夜食の様子、内容 ・食事について気をつけていること <p>◇授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験をひかえた今、食生活のあり方について考える。(脳の働きと食事の関係性を知る。) 【栄養教諭の専門性の活用】 ・どのような食生活をすれば、脳が働くかを考える。 ・脳の働きを良くする食品について学ぶ。 【栄養教諭の専門性の活用】 ・夜食を上手にとる方法を考える。同時に朝食の大切さを知る。 ・自分の食生活をふり返り、どんな点を改善すべきかを考える。 <p>◇事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のワークシートや授業態度、家庭学習の内容から、事前と比較し変容を見取る。 ・各自の改善方法を共有し合う。 ・家庭での過ごし方を考える機会とし、保護者にも授業内容を伝える。 ・1ヶ月後に事後アンケート 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のワークシートの見取り ・実践後の授業態度や家庭学習の様子 ・生活記録ノートの内容やテスト取組表の様子 ・給食の残食の内容 ・実践後の変容 ・事後アンケートを実施し改善を評価

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	南部町立南部中学校	校 長 名	石川 君男
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	受験期の食事について ～望ましい食習慣をつくり賢くなろう～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣を各自が身につけることができる。 ・「脳と食事」の関係について知識を深め、得た知識を、授業だけでなく家庭学習習慣を身につけることにつなげる。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べる生徒の割合 8割以上 ・栄養教諭の指導実践回数 8～10回(9月～3月)
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の指導実践回数 9回(9月～2月) ・「朝食を毎日食べる」生徒が全体では8割を超えた。(2年女子のみ79.2%) ・全校生徒が栄養バランスを意識した朝食メニューを考えることができた。 (ワークシートからの見取り)
実施日・実施期間	平成30年12月5日
対 象	全校生徒
指導場面	学級活動(全校集会)
指 導 者	学級担任・学年部職員・栄養教諭・食教育担当
具 体 的 な 内 容	
<p>◇授業内容</p> <p>以下の内容について、全校生徒を対象に保健給食委員の生徒が集会を行った。</p> <p>※ロールプレイを取り入れたり、スライド資料や拡大資料を使用しながらわかりやすく伝えた。</p> <p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みを間近にひかえ、また、3年生は受験をむかえるにあたり、食生活のあり方に考える。(脳の働きと食事の関係性を知る。)【栄養教諭の専門性の活用】 ・どのような食生活をすれば、脳がより働くかを考える。 ・脳の働きを良くする食品について学ぶ。【栄養教諭の専門性の活用】 ・夜食を上手にとる方法を考える。同時に朝食の大切さを知る。 <p>【学習のふり返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活をふり返し、どんな点を改善すべきかを考える。 ・冬休みなどに自分で用意しようと思う「朝食のメニュー」を考えてワークシートに記入。 <p>◇事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健給食委員と栄養教諭が、授業のワークシートを見取りながらコメントやアドバイスを記入して返却する。 ・家庭での過ごし方を考える機会とし、学習内容をおたよりにして、各家庭に配布。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・「脳はくいしんぼう」という言葉を意識する生徒が増え朝食についての意識が高くなった。 ・バランス良くいろんな食材を食べることの重要性を知識から理解した。 ・栄養教諭の指導実践回数の目標値を達成できた。 ・授業に栄養教諭が関わることで、その後の栄養教諭の訪問指導にもよく耳を傾け学ぶようになった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を、行動に移せる生徒に育てていくために今後も様々な角度から継続的に指導していく。特に家庭学習の習慣を身につけることへつなげたい。 ・若干名いる「朝食を時々食べない」「朝食をまったく食べない」生徒への指導、取り組みもねばり強く続けたい。

様式1

平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	身延町立身延清稜小学校	校 長 名	笠井 安秀
-------	-------------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・日々の給食の様子を見ている中で、野菜嫌いのため、サラダ・煮物などを残す子どもが目立つ。 ・肥満傾向児童（1年2人、2年2人、3年1人、4年1人、5年5人、6年2人）は、生活習慣の乱れ、食事の課題、運動量不足課題を抱えている。特に食事については、野菜嫌いがある。 ・地域食材としての「あけぼの大豆」の認識は高いが、家庭での利用機会は少ない。 ・給食で提供される「大豆」を嫌がる児童が若干いる。

実 践 名	「あけぼの大豆をもっと知ろう！もっと食べよう！計画」
目 標	あけぼの大豆への関心を高め、積極的に食べようという意欲を高める。
目標指標と数値	あけぼの大豆をもっと食べようと思う1～3年の児童の割合 9割
実施予定日 ・実施予定期間	平成30年8月～平成31年1月
対 象	全校児童・保護者
指導場面	給食時間・保健給食委員会の活動
指 導 者	養護教諭・給食主任：有野久美 栄養教諭：一ノ宮菜央
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・9月 実態把握 アンケート調査（1～3年児童・保護者 あけぼの大豆への意識と利用実態等） ・町福祉保健課栄養士との連携であけぼの大豆の新たな献立開発（中部支会食育研究会との連携）と献立としての提供 ・給食時間での放送を通して、あけぼの大豆に関わる内容の広報 ・給食時間での栄養教諭の指導 ・給食便りによる啓発活動（児童・保護者対象） ・保護者向けに大豆を利用した献立レシピの提供 ・児童保健給食委員会での集会を通じた啓発活動 ・3年生 総合的な学習の時間での大豆の簡単調理活動の実施 ・1月 実態把握 アンケート調査（1～3年児童） 	
評価方法	・1月実施のアンケート調査結果

(作成者名：有野久美 校務分掌等：養護教諭・給食主任)

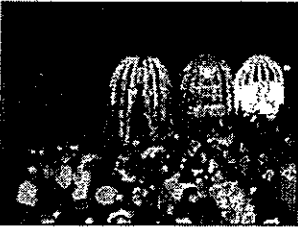


平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	身延町立身延清稜小学校	校 長 名	笠井 安秀
実 践 名	「あけぼの大豆をもっと知ろう！もっと食べよう！計画」		
目 標	あけぼの大豆への関心を高め、積極的に食べようという意欲を高める。		
目標指標・数値	あけぼの大豆をもっと食べようと思う1～3年の児童の割合 9割		
実践後の数値 (評価方法)	あけぼの大豆をもっと食べようと思う割合 10割 1年100% 2年100% 3年100% (児童保健委員会の聞き取り調査) 給食の献立に活用される大豆・枝豆の残食量は減少しているが、完食には至っていない。		
実施日・実施期間	平成30年8月～平成31年2月		
対 象	全児童		
指導場面	児童保健給食委員会の活動・給食の時間での栄養教諭 3年総合的な学習の時間		
指 導 者	養護教諭・給食主任：有野久美 栄養教諭：一ノ宮葉央		
具 体 的 な 内 容			
8月	中部支会食教育研究会と連携した「あけぼの大豆」の新たな給食献立検討と試作 試作献立：枝豆のお赤飯、万灯蒸し、曙揚げ、枝豆入り具だくさんすいとん、お釈迦ごごり (町福祉保健課栄養士との連携) 町調理員講習会での「あけぼの大豆」の新たな献立の調理工程検討・試作		
9月	実態把握 アンケート調査 (1～6年児童 あけぼの大豆への意識等) 集会活動にむけての取組 給食時間での栄養教諭のあけぼの大豆に関わる指導		
10月	「万灯蒸し」の提供と朝の集会での説明 (伝統行事・献立への願い) と給食での提供 町広報誌での記事掲載 (町福祉保健課との連携) 児童保健給食集会での発表 (クイズ・説明・「お釈迦ごごり」の試食)		
11月	地域関係者のご協力により「あけぼの大豆」の収穫体験 (1～3年) を実施		
10月からの給食での「あけぼの大豆」「枝豆」の積極的な提供 (町産業課から大豆の無料提供含む)	回数：10月6回、11月4回、12月2回、1月7回 献立：「大豆入りポトフ」「ポークビーンズシチュー」「大豆サラダ」「大豆入りかみかみサラダ」「豆と野菜のスープ」「枝豆入りビーフシチュー」「枝豆入り春雨の酢の物」「きゅべつと枝豆のサラダ」「枝豆入りクラムチャウダー」		
3年生	総合的な学習の時間 年間を通した「あけぼの大豆」学習と栽培 (峡南農務事務所の支援)		
1月	1～3年生の児童に対する聞き取り調査		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 児童全員が地域産物としての「あけぼの大豆」について理解を深めることで、給食献立の大豆を食べようとする意欲は高まった。 集会、新献立の啓発機会を通して、特産物の活用だけでなく、地域の食文化や地域の願い等に関心をもって食べようとする子どもが増えた。 関係者の支援を受けることで、学びの深まりと給食での大豆提供の機会を増やすことができた。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き「あけぼの大豆」をキーワードに、教科や総合的な学習の時間・給食とで連携し、子供の意欲を高め、食べる機会を増やしていく。 保護者に対して家庭でも取り入れられる献立レシピ提供し、連携を進めたい。 		

(作成者名:有野 久美 校務分掌等:養護教諭・給食主任)

【参考資料】

10月5日朝の集会での「万灯蒸し」の説明児童保健給食委員会 集会概要

<p>10月13日に…</p> <p>桜の花が さきました</p>		<p>みのぶさん にちれんしょうにん 日蓮上人が なくなった日のお話</p>	<p>そのおはなしを もとに…</p> <p>おまつりが…</p> <p>おえしき まんどう ぎょうれつ 御会式・万灯行列</p>
		<p>給食では、</p>  <p>まんどうむし</p>	<p>まんどうむし ざいりょう</p>

10月12日 児童保健給食委員会による給食集会の資料

<p>きゅうしょくしゅうかい 給食集会</p>	<p>これはなに？ まるいもの</p>	<p>これはなに？ だいち ちゅうこん 大地の黄金</p>	
<p>別名 「はたけのにく」 みのぶの特産</p>	<p>だいず みのぶの特産 あけぼのだいず</p>	<p>だいずは、すきですか？</p>  <p>きらい 2人 すき 59人</p>	<p>えだまめは、すきですか？</p>  <p>きらい 2人 すき 68人</p>
<p>えだまめ だいず きょうだい</p> 	<p>えだまめ だいず たいよう たくさん</p> 	<p>だいずをつかった料理 だいずのはいたスープ だいずのサラダ にも おしゃかごり</p> 	<p>えだまめ だいず きょうだい なぜ？</p> 
<p>だいずの えいよう 「あかのなかま」 こどもには たいせつなえいよう</p> 	<p>だいず たんぱくしつ てつ カルシウム しょくもつせんいつ</p> 	<p>たいせつなえいよう たいせつなえいよう たいせつなえいよう</p> 	<p>あけぼのだいず みのぶだから、 おおきくもたつ おおきく おいしいからにんき！</p> 
<p>あけぼのだいず</p> 	<p>日本でたべるだいず にほんで つくっただいず 24% おいしい きちょうな あけぼのだいず</p> 	<p>たいせつにたべよう</p> 	<p>だいずのおやつ おしゃかごり 4月8日</p> 



広報みのぶ

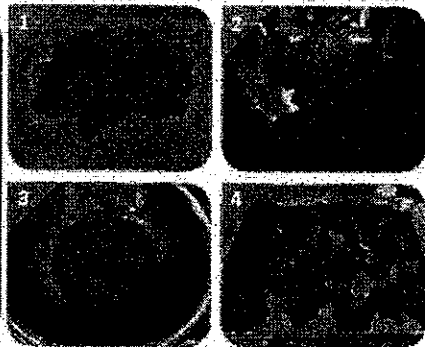
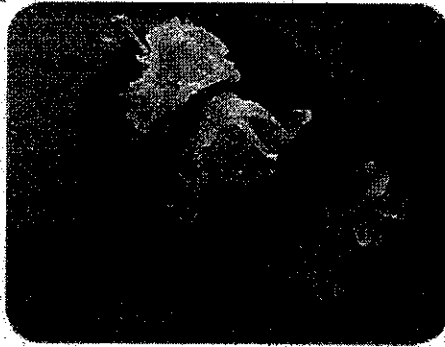
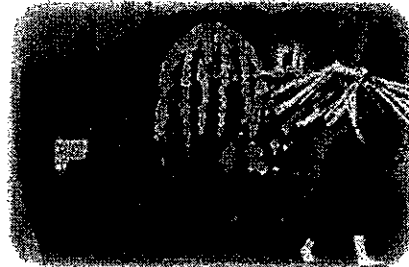
12月号 NO.171
毎月1回(1日)発行

受け継ぎたい! つなげたい!

身延町の郷土食

～万燈蒸し編～

万燈蒸しとは…1282年10月13日、日蓮聖人が御入滅の際に時ならぬ桜が咲いたと言われている。それに因んだ御会式(万燈)の年中行事をイメージして考案した1品。



万燈蒸し 材料 (4人分)

鶏ひき肉	300g	酒	大さじ1
鶏むね肉	100g	醤油	大さじ1
貝柱水蒸缶	1缶	卵(小さい)	1個分
長ねぎ	1/2本	しょうゆ	少々
しょうが	1かけ	塩	小さじ1
にんにく	1/2かけ	ごま油	小さじ1
片栗粉	大さじ2	ごししょう	少々
冷凍ゆば	120g		

- 1 冷凍ゆばを半解凍の状態で、1cm角に切っておく。
- 2 鶏むね肉は細かく切る。長ねぎはみじん切り、しょうが、にんにくはすりおろしておく。ボールに入れて、貝柱も合わせておく。
- 3 2に鶏ひき肉と片栗粉、■の調味料を混ぜる。
- 4 3を均等な大きさに分け、まわりにゆばをつけて軽くおさえながら丸くする。
蒸し器で10～15分蒸して出来上がり!

コツ・ポイント
蒸しあがったものに、ゆで卵を割んで散らすことで桜の花びらようになります。さらに串にさすことで万燈のように見えます。



◀昨の集会で万燈のいわれや万燈蒸しの勉強をしました



▲給食ではアルミカップに入れて提供しました



◀みんな完食!!

地域や家庭で受け継がれてきた行事食や郷土料理が家庭で伝えられることも少なくなってきている現在…郷土料理や行事食などの地域に根ざした伝統的な食文化は、その土地の産物を使って独自の料理法で作られ、受け継がれてきたものであり、これらを学校給食の献立として提供することは、子供たちが地域の自然や文化、産業等に関する理解を深める上で非常に有効な手段となります。

10月上旬に町内全ての小中学校で万燈蒸しを提供しました。美味しかったという嬉しい声がたくさん届きました。

あけぼの大豆やゆばなど身延町の食材を使ったレシピも多数掲載!

身延町×管理栄養士 COOKPAD でレシピ公開中! <https://cookpad.com/kitchen/13040268>
<https://cookpad.com/kitchen/13040268>



過去の広報みのぶは、身延町ホームページにて閲覧できます。
<https://www.town.minobu.lg.jp/>



平成30年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立大田小学校	校 長 名	保坂 和彦
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

両親ともに働いている家庭が多く、朝早くから仕事に出てしまう家庭もある。中には朝ご飯を食べずに登校してくる児童や、家族と一緒に食事ができない児童もいる。午前中なかなか学習に集中できない児童も見られる。給食では、好きなものだけしか食べられない、野菜がなかなか食べられないなどの偏食傾向のある児童や、食物アレルギーのある児童も多く、残食の量も多い。自身の健康や成長のためには、必要な栄養素をバランスよく摂ることが必要であることを理解し、自分でコントロールしながら摂取できるようになることが課題である。

実 践 名	しっかり食べて残食(3)ゼロ(0)
目 標	バランスよく食べることの大切さを知り、心身の成長や健康のために望ましい食事のとり方を身に付ける。
目標指標と数値	給食食べきり調べのクラスの目標達成率100%を目指す。
実施予定日 ・実施予定期間	2学期
対 象	全学年
指導場面	学級活動・給食指導・児童会活動
指 導 者	各学級担任及び栄養職員
具 体 的 な 内 容	
<p>○学級活動における食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスの良い食事の大切さを各学年の発達段階に合わせて指導する。 ・栄養職員から出される指導資料を活用する。 ・栄養職員と協力をして学級指導を行う。 ・高学年では食品ロスの問題についても取り上げる。 <p>○給食の時間の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間を使って、体に必要な栄養素や、バランスの良い献立についての指導を随時行う。 ・季節や行事にあわせた献立を活用して、栄養の摂取だけでなく、食事の楽しさも伝えていく。 <p>○食べきり調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会と給食委員会で協力し、残食ゼロを呼びかける。 ・各クラスで目標を設定して給食食べきり調べに取り組む。 	
評価方法	食べきり調べを行う

(作成者名 岡村 ひとみ

校務分掌等 給食主任

)

平成30年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立大田小学校	校 長 名	保坂 和彦
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	しっかり食べて残食(3)ゼロ(0)(創立30周年を記念した取り組み)
目 標	バランスよく食べることの大切さを知り、心身の成長や健康のために望ましい食事のとり方を身に付ける。
目標指標・数値	給食食べきり調べのクラスの目標達成率100%を目指す。
実践後の数値 (評価方法)	食べきり調べの結果、1学期の目標達成率は58%であったが、3学期は89%となった。食べきり率でも、100%のクラスが1学期には3クラスであったのに対し、3学期は7クラスに増えた。
実施日 ・実施期間	2学期・3学期
対 象	全学年
指導場面	学級活動・給食指導・児童会活動
指 導 者	各学級担任及び栄養職員
具 体 的 な 内 容	
<p>○学級活動における食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスの良い食事の大切さを各学年の発達段階に合わせて指導した。 ・栄養職員から出される指導資料を活用した。 ・高学年では食品ロスの問題についても取り上げてきた。 <p>○給食の時間の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間を使って、体に必要な栄養素や、バランスの良い献立についての指導を行った。 ・季節や行事にあわせた献立を活用して、栄養の摂取だけでなく、食事の楽しさも伝えてきた。 <p>○食べきり調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立30周年とかけた残食(3)ゼロ(0)の運動の一環として、児童会と給食委員会で協力し、残食ゼロを呼びかけた。 ・各クラスで目標を設定して給食食べきり調べに取り組んだ。 <p>○給食委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童を対象に「嫌いなものアンケート」の実施、職員の「嫌いなもの克服レシピ・方法」の掲示、給食委員による絵本「すききらいなんてだいきらい」の読み聞かせ、を通して好き嫌いを少しでも減らし、バランスよく何でも食べられるように指導をした。 	
成 果	よりよい心身の成長のためには、バランスよく食べることが大切であることを指導しながら、食べることへの意欲付けやがんばった達成感を感じ、食べることに對して前向きにとらえられるように指導をすることができた。
今後の課題	食べきり調べを実施している期間は残量もとても少なくなるが、終わるとまた残量が少し増えてしまった。自分の成長のためにバランスよく食べること、食品ロスを減らすためなど、今後も様々な視点からの食育が必要である。

(作成者名 岡村 ひとみ

校務分掌等

給食主任

)